

令和3年度 八洲学園大学事業計画書

1. 施設の概要

学校名	所有区分	郵便番号	学校(会場)所在地	電話番号	FAX番号
八洲学園大学	法人所有	220-0021	神奈川県横浜市西区桜木町7-42	045-313-5454	045-324-6961
八洲学園大学	法人所有	160-0022	東京都新宿区新宿2-12-12	-	-

2. 学生の概要

(1) 設置課程・学科・収容定員・在籍者数一覧(令和3年3月1日時点)

設置学部	学科	入学定員 (人)	編入学定員 (人)	①収容定員 (人)	②正科生 在籍者数 (人)	③科目等 履修生数 (人)	④特修生数 (人)	収容率(%) ②÷①×100
生涯学習学部	生涯学習学科	800	400	4,000	1,970	1,004	21	49.25%

(2) 令和3年度入学者数・卒業者数・退学者数・除籍者数予測一覧

学生区分	入学者数 (人)	編入学者数 (人)	卒業者数 (学位授与数) (人)	リカレント修了/終了者数 (人)	退学者数 (人)	除籍者数 (人)	増加予測人数 (人)
正科生	43	549	46	216(リカレント修了者)	57	0	273
科目等履修生	216	—	—	145(終了者)	18	172	-119
特修生	3	—	—	—	1	0	2

※除籍は平成29年度まで実施なし、平成30年度～実施。

3. 教職員関係

(1) 令和3年度管理職の概要

職名	氏名	備考（新任・留任等）
学長	水戸部 優子	留任
事務局長	佐藤 明由美	留任
総務課長	林 正隆	留任
教務課長	佐藤 明由美	留任
総務課長補佐	—	—
教務課長補佐	佐藤 絢	留任
学生支援センター長・入学支援相談センター長	佐藤 絢	留任
キャリアコーディネーター室長	佐藤 絢	留任
広報室長	佐藤 絢	留任

(2) 令和3年度教職員の概要（令和3年4月1日時点）

職位		合計（人）	平均年齢（歳）
教員	本務	20（学長を含む）	51.4
	兼務（非常勤講師）	50	52.4
職員	本務	6	37.0
	兼務	4	48.5

4. 事業の概要

(1) 事業の概要

①定員充足率の向上

様々なウェブ媒体による大学広報を促進し、ここ数年改善傾向にある定員充足率のさらなる向上をはかる。

②学生のニーズに応える学習環境の整備

若年者からシニアまで幅広い層の学生を受け入れていることを踏まえ、カリキュラムやeラーニング・システムの改善に努める。

③社会貢献・地域貢献等

引き続きオンラインによる公開講座・教員免許状更新講習を開講し、生涯学習社会の実現に貢献する。空き教室の貸出事業はコロナの影響で厳しい状況が予想されるが、貸し出す教室や時間帯の工夫により減収を防ぐ。

<数値目標> ()内は対前年度比

- ・入学者数（科目等履修生を含む）：941名（約110%）
- ・学生生徒等学納金収入：239,109,200円（約110%）
- ・公開講座：3,300,000円（約110%）
- ・教員免許状更新講習：29,381,000円（約110%）
- ・施設設備利用料収入：7,488,000円（約100%）

(2) 主な事業の目的・計画及びその進捗状況(「平成25～34年度八洲学園大学中長期計画」に基づく)

①生涯を通して主体的に学びを発信し続ける意欲をもった人材の育成

年度	事項	概要	進捗状況
3	カリキュラム・ポリシーに基づいた体系的な教育課程の編成	カリキュラム・ポリシーを整備し体系的な教育課程を編成する。	平成25年度に専門科目の科目群を新設。「教養系」を新設。 平成27年度にカリキュラム・ポリシー策定。 平成28年度に専門科目の「教養系」を「人間力創造系」に変更。科目群を新設。 平成29年度にカリキュラム・ポリシー改定。基礎科目の分類を廃止。 平成29年度～シラバス見直しを開始。 平成30年度に資格科目を廃止(専門科目に変更)。 令和元年度～プロジェクトチームを立ち上げカリキュラムマップ等の検討を開始。
3	ディプロマ・ポリシーに基づいた評価指標の明確化	ディプロマ・ポリシーを整備し評価指標を明確化する。	平成27年度にディプロマ・ポリシー策定。 平成29年度にディプロマ・ポリシー改定。 平成30年度に資格科目を廃止。 令和元年度～成績評価基準(GPA制度等)導入を検討。 令和2年度～成績評価基準(GPA制度等)導入。
3	多様な学習支援	eラーニング・システムを活かした支援や学生支援センターによるきめ細やかな支援を実施する。	平成25年度に「学生支援センター説明・交流会」開始。 eラーニング・システムの仕様改善により支援の自動化を推進。 令和元年度に「レポートの書き方ハンドブック」(旧「学習のしおり」)を作成(eラーニング・システム上で提供)。 令和2年度～「学習のてびき」「レポートの書き方ハンドブック」を冊子化し新入生に配布。 令和2年度～「学修に活用可能なWeb上の情報源リスト」を作成(eラーニング・システム上で提供)。

②学生が意欲をもつ学びの場の構築

年度	事項	概要	進捗状況
3	アドミッション・ポリシーに基づいた学生の受入れ	アドミッション・ポリシーを整備し適切に学生を受け入れる。	平成 25 年度に西九州大学、東京未来大学と協定を結び司書教諭科目の履修生受入れを開始。 平成 26 年度に丸善株式会社と協定を結び司書科目の履修生受入れを開始。 平成 27 年度に株式会社ヴィアックス、株式会社図書館流通センターと協定を結び司書科目の履修生受入れを開始。 平成 29 年度にアドミッション・ポリシーを改定。 平成 30 年度の募集要項から他の 2 つのポリシーも明記。 令和 3 年度入試より神奈川県等の生涯学習センターに大学案内を送付。
3	学生の視点を育成に反映させる取り組み	学生の要望を科目の新設や教授法の開発に反映させる。	平成 25 年度に学生アンケート開始、要望等への対応状況をサイト上に公開。 平成 27 年度に科目評価アンケート開始。 令和元年度に全学生対象のハラスメントアンケート実施。 令和元年度末に学生アンケート実施。
3	学生の成長を促す取り組み	科目の充実等により学生の成長を促す。	平成 27 年度に「初年次セミナー」ほか新設。 平成 29 年度に「レポートの書き方入門」ほか新設。 平成 30 年度に「学校図書館専門職養成プログラム」新設。 令和元年度に「図書館基礎特論」ほか新設。 令和 2 年度に社会福祉主事（任用）資格科目を中心に多数新設。 令和 3 年度に「自然災害史論」ほか新設。

③時代の要請に応えた e ラーニングスタイルの提供

年度	事項	概要	進捗状況
3	e ラーニング・システムの機能を生かした教授法の開発	学生や教職員の意見等を反映し e ラーニング・システムの仕様改善を推進する。	平成 25 年度～e ラーニング・システム「eLY」の使用改善を推進。 令和元年度に新 e ラーニング・システム「SOBA マナベル」に全面移行。
3	FD の実施	FD を実施し e ラーニングスタイルの教育の能力を高める。	平成 25 年度 FD 研修会「今後の e ラーニング・システムの方向性について」等。 平成 26 年度 FD 研修会「テキスト履修科目課題レポートの添削指導について」等。 平成 27 年度 FD 研修会「著作権と教材について」等。 平成 28 年度 FD 研修～「公開授業（授業参観）」開始。 平成 29 年度 FD 研修会「通信制大学におけるレポートの剽窃」。 平成 30 年度 FD 研修会「大学教育と通信教育」。 令和元年度は、SD・FD 合同研修会「ハラスメント防止」講演、「八洲学園大学のブランディング」ワークショップを予定していたが、コロナウイルス感染症の影響により中止（延期予定）。 令和 2～3 年度 FD 研修は、日本学術振興会「研究倫理 e ラーニングコース」受講を案内。
3	SD の実施	SD を実施し e ラーニングスタイルの教育や学生支援の能力を高める。	平成 29 年度 SD 研修会「障害を持つ学生への対応」。 平成 30 年度 SD 研修会「大学はどのように評価されるか—前回受審の振り返りと新評価指標の確認」「精神障害、発達障害のある学生への対応」。 令和元年度は、SD・FD 合同研修会「ハラスメント防止」講演、「八洲学園大学のブランディング」ワークショップを予定していたが、コロナウイルス感染症の影響により中止（延期予定）。代替として、厚生労働省「パワーハラスメントオンライン講座」受講を案内（専任教職員 23 名中 20 名受講（1 名は休職中））。 令和 2 年度 SD 研修会「大学通信教育の現状、そして今後に向けて」（オンライン開催）。

④生涯学習社会の実現に向けての研究開発の推進

年度	事項	概要	進捗状況
3	カリキュラムの確認と再構築	生涯学習学社会の実現のために求められることを分析しカリキュラムを再構築する。	平成 27 年度にカリキュラム・ポリシー策定。 平成 29 年度にカリキュラム・ポリシー改定。 令和 2 年度～「学習のてびき」にもカリキュラム・ポリシーを明記し学生への周知を図る。
3	FD の実施	FD を実施し研究開発を推進する。	平成 25 年度 FD 研修会「4 学期制導入に伴う課題と対応策について」等。 平成 28 年度「学長講演（「本学の建学の精神、教育の理念について）」等。 平成 29 年度 FD 研修会「通信制大学におけるレポートの剽窃」。 平成 30 年度 FD 研修会「大学教育と通信教育」。 令和元年度は、SD・FD 合同研修会「ハラスメント防止」講演、「八洲学園大学のブランディング」ワークショップを予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止（延期予定）。 令和 2～3 年度 FD 研修は、日本学術振興会「研究倫理 e ラーニングコース」の受講を案内。
3	研究紀要の発行	八洲学園大学紀要を発行し公表する。	平成 17 年度～紀要を発行、サイト上に公開。 令和元年度に JAIRO Cloud 導入。また、データ版の発行のみだった号を冊子化し国立国会図書館等に寄贈。 令和 3 年度～紀要とは別に『八洲論叢』を発刊予定。

⑤グローバル化に対応した学習の提供

年度	事項	概要	進捗状況
3	多様なインターネット環境に対応した学習システムの構築	現行システムの弱点を補う新システムを開発する。	平成 27 年度に SOBA LMS system を公開講座に導入。 平成 28 年度に SOBA LMS system を教員免許状更新講習に導入。 令和元年度に新 e ラーニング・システム「SOBA マナベル」に全面移行。
3	公開講座の新設	グローバル化に対応した公開講座を新設する。	平成 30 年度～図書館における多文化サービスに関する講座の開設を検討。 令和元年度に「司書対象「英語よみきかせ」のための選書」開講。
3	科目群の整備	グローバル化に対応した科目群を整備する。	平成 30 年度～外国語教育の科目等を検討開始予定。 令和 2 年度に「観光心理学」を新設。

⑥キャリア形成や就職・転職支援の実施

年度	事項	概要	進捗状況
3	就職・転職支援の充実	キャリアコーディネーター室による支援を行う。	平成 24 年度にキャリアコーディネーター室を設置。 平成 29 年度より正科生に特化した支援を開始。 令和 2 年度よりシニア層対象の就活セミナーを実施。
3	科目群の整備	キャリア教育科目を整備する。	平成 25 年度に専門科目「キャリア教育」(科目群)を新設。 平成 29 年度にキャリア教育担当の専任教員を採用。 令和 2 年度に「初歩のプログラミング入門」を新設。
3	公開講座の新設	キャリア形成に役立つ公開講座を新設する。	平成 26 年度に「開放授業」開始。 平成 27 年度～図書館司書向け講座の開設を推進。 令和元年度に防災士養成講座開講、TOEIC 対策講座企画(未開講)。 令和 2 年度に「オンラインでも動じない! 伝わる話し方」「司書の実務に関わる法律基礎講座～著作権編～」 「教養としての法学入門」「仕事に活かそうクラウドアプリ」「自然災害の歴史と調べ方」を新規開講。

⑦広く社会や地域に貢献

年度	事項	概要	進捗状況
3	神奈川県や横浜市との連携	神奈川県や横浜市主催イベント等に参加し地域に貢献する。	平成 25 年度に一般社団法人横浜みなとみらい 21 と連携を開始。 平成 25 年度「ヨコハマ大学まつり」講座開講。 平成 26 年度「ヨコハマ大学まつり」講座開講。 平成 29 年度「にしくらぶ」講座開講。 平成 30 年度「にしくらぶ」講座開講。 令和元年度「にしくらぶ」は災害等の影響により中止。 令和 2 年度「にしくらぶ」は YouTube 配信で開講。
3	各地域での社会貢献	公開講座を e ラーニングで提供し社会に貢献する。	平成 25 年度より卒業生による公開講座を開講。 平成 27 年度より図書館司書向け講座を開講。 平成 28 年度より八洲学園大学国際高等学校との提携を開始。 平成 28 年度より株式会社キャリアパワーとの提携を開始。 令和元年度に新 e ラーニング・システム「SOBAe-college」に全面移行。 令和元年度に防災士養成講座を開講。
3	大学施設・整備の開放	大学施設・整備を一般に開放し地域に貢献する。	平成 23 年度より空き教室の貸出事業開始。 平成 25 年度より附属図書館を一般開放。(令和 2 年度はコロナの影響により閉鎖)

(3) 施設・設備の整備計画

横浜ビルの老朽化（築 33 年）に伴う整備を行う。入学者数や学納金収入状況に応じて、長期的な修繕等を検討していく。

(4) 授業料変更等

特になし。

(5) 卒業者数、就業者数、学位授与数の見込み ※卒業者数、学位授与数は2 (2) 参照。

学生区分	就業者数 (在学時からの就業者も含む) (人)
正科生	641 人
科目等履修生	542 人

(6) 学生の就職、進学状況

平成 24 年度後半より「キャリアコーディネート室」を設置し、就転職を希望する在学生・卒業生へ就転職セミナーの実施や、メールでの定期的な就職情報配信を行っている。令和 2 年度はキャリアコーディネート室の支援により 14 名 (科目等履修生を含む) の就転職が決定した (3 月 1 日時点)。大半が社会人学生であることから、既に就職している者も多く必ずしも卒業と同時に就転職を希望するとは限らないが、「キャリアコーディネート室」の活動が広報に結びつき、入学促進にもつながっている。

また、令和 2 年度から新たに 1 社と図書館司書資格科目の履修に関する協定の締結を検討している (提携企業は計 5 社となる予定)。

(7) 教職員の採用・退職計画

職位		令和 2 年度退職 (人)	令和 3 年度採用等 (人)
教員	本務	特任教授	0
		教授	1
		准教授	0
		講師	0
	兼務 (非常勤講師)	1	
職員	本務	0	
	兼務	3	

※教員 (本務) には学長を含まない。

(8) 今後の課題

入学者数・履修者数ともに増加傾向にあるが、令和2年5月1日時点で定員充足率は約50%（科目等履修生を含めると約72%）である。ただ、正科生（1年次入学）は横ばい、正科生（学士取得編入学）は微増である。また、特にシニア割引利用者層（50代以上）の正科生（資格・リカレント編入学）の伸びが大きい。人口比率的に見てシニア層への広報には大きな可能性があるが、収支のバランスも考えた経営戦略が求められる。

また、令和元年度に移行したeラーニング・システム「SOBA マナベル」の不具合はおおよそ解消したが、令和2年度に早くもサーバー容量不足による問題が発生した。コロナの影響によるオンライン授業の普及によって、eラーニングスタイルの大学の競争はさらに激しくなると考えられることから、より一層システムの改良を進める必要がある。

5. 財務の概要

前回の認証評価で指摘を受けた財務状況の改善が引き続き最重要課題であり、当初予算を実現するため、収入と支出のバランスを注意深くチェックしながらコスト削減と各分野の収入増を同時に推進していく。また、築後31年になる八洲学園大学本館を維持するため、大規模修繕の計画およびその原資となる修繕積立金の計上も今後の課題である。